

「かっとび王」に向けて！！～友だちの温かさを感じながら～



5年 体育
則藤 一起

本学級の子どもたちは、体を動かすことが非常に好きである。休憩中、男子はサッカーや野球、女子は8の字跳びをして過ごすことが多い。そこで1学期は、某番組の「かっとび王」（数人で組んで8の字を跳ぶ）にチャレンジして、クラスづくりに生かそうと考えた。また、回数にチャレンジする中で、映像を見て自分の跳び方やみんなでつながっていく跳び方を追究していくと考えた。そしてそれらを考えていく中に省察する場面があり、そこで身に付けた資質・能力を他教科・他領域でも発揮する考えた。

さて、クラスで話をすると返ってきたのは「う～ん。」という重い返事が数人。“跳べないから”というのが理由の一つであった。ここで口を開いたのがKさんである。「私も去年は、最初は跳べんかったけど、できるようになったで。しかも、2人で跳ぶのとかおもしろそうやん。やってみようよ。」この一言に鼓舞され、“やってみよう！”と思った人が手を挙げ、それが次から次へとつながり、クラスでチャレンジすることとなった。

1. 8の字跳びを跳ぼう！

まず8の字跳びから始めた。昨年度1クラスが取り組んでいたもので、10人ほどが跳べた。いい流れがあると、見様見真似で跳べるものである。全員が跳べるようになるまで、そんなに時間はかからなかった。

2. ここからが本番！

1人跳びが跳べるようになると、次はノーミスをめざした。1分間を連続で跳べるようになり、ついにスタート地点の2人跳びにチャレンジである。とりあえず男女が分かれて組んだ。しかし、ひっかかった時にかかる言葉は少なかった。“自分たちは跳べている。”と、どこか他人事のような感じだった。

3. 心を一つにするとは？？

男女隔たりなく組まなければ、この後の3人跳び・4人跳びにつながっていかないと考え、クラスで話し合った。初めは少し嫌そうだったが、そんなことを言っている場合ではない。また学級会で、取り組む上での心構えも話し合い、気持ちが上向いていった。

5C かっとび日本一への道

1. あいさつは元気よく！（教室でも体育館前でも）・・・応援してもらえるクラスになるために
2. 朝の用意を早くして、1秒でも多く跳ぶ！・・・宿題なんて忘れていない場合じゃない
3. 整理整とんで心を切りかえる！・・・気持ちも整理するために
4. 早く食べ終えた人から、食器を集める！・・・1秒でも多く跳ぶために
5. 前向き発言をする！・・・失敗は誰にだってあるある みんなでカバー！！
6. 大きな声を出す！・・・「ハイ！」「ハイ！」は合言葉
7. 決してあきらめない！・・・心を一つにするために

知らず知らずの内に友だちの腰に手を回し、お互いを支え合うステキな姿があった。練習時間も朝休憩から、大休憩・昼休憩などを活用し始め、5Cの本気さが出てきた。

4. 話し合いは自分たちで

「今日の振り返りをしましょう。」毎回、取り組んだ後には振り返りの時間をとった。また、映像で確認すると「足を上げるタイミングが合っていないよ。」「前方に跳んでないから、真下に着地して後ろのペアが入りにくそうだよ。」などの意見が出てきた。直した方が良いところや、反対にできていたところなど気付いたところを出し合った。時に厳しい意見もとんだ。しかし、それを伝え合い、受け止められるクラスをめざした。



3人跳びの1分間ノーミスは思っていた以上に難しく、1次予選突破はならなかった。この悔しさのままでは終われないので、きのくにチャレンジランキング（和歌山県の取り組み）での好記録をめざして、5Cの8の字跳びへの挑戦はまだ続く。

5. 見え始めたカリキュラム・デザイン

あいさつの気持ちよさを知り、生活委員会の子どもたちは委員会の活動に率先して取り組んだ。1秒でも時間をつくるために給食のおかわりやそうじを終わらせることが早くなった。男女の仲が良く、休憩時間に男女分け隔てなく過ごし続けている。算数でのペア活動で、じっくりと話を聞く姿につながった。体育のハンドボールで、バディチームが仲間の動きを見続け、アドバイスをした。スポレクでのあきらめない心にもつながった。さまざまな場面でかっとびの心構えが生かされ、よりよい自分たちになろうとしてきた。全教育課程を通して子どもたちが探究している姿が、カリキュラムデザインの第一歩ではないだろうか。